



大分の青少年

せいしやうねん



少年の主張大分県大会



11月県下一斉あいさつ運動



大分県青少年健全育成大会



大分県少年のつどい

INDEX

- ② 家庭の日ふれあい川柳
- ③ 県民会議加盟団体の活動
 - ・チャイルドラインおおいた
 - ・特定非営利活動法人 共に生きる
 - ・公益社団法人日本ボーイスカウト大分県連盟
- ④ 第36回「大分県少年の船」運航事業／第37回「少年の主張大分県大会」
- ⑤ 平成27年度「大分県少年のつどい」
- ⑥ 市町村民会議の取り組み(中津市、別府市、臼杵市)
- ⑦ 市町村民会議の取り組み(佐伯市、竹田市、玖珠町)
- ⑧ 「大人が変われば子どもも変わる」県民運動／大分県青少年フェスタ
- ⑨ 子どもたちをインターネットトラブルから守るために／インターネット出前講座
- ⑩ 大分県青少年健全育成大会／青少年育成県民会議会長表彰
- ⑪ 県民会議加入のお願い／自死遺児救済援護事業のお知らせ
- ⑫ 県からのお知らせ 大分県青少年健全育成基本計画策定／おおいた青年総合相談所



家庭の日ふれあい川柳

青少年の健全な育成に関する条例では、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。「家庭の日」は、子どもを育てる際の家庭の果たす役割について理解を深める日です。大分県と大分県青少年育成県民会議では、この「家庭の日」の周知と家族のふれあいを深めるため、県内の小学5,6年生と中学1年生を対象に「家庭の日ふれあい川柳」を募集しました。

この川柳は、「子の句」とそれに返事をする「親の句（返句）」を一組とし、子どもと親などの身近な大人が家庭でのふれあいを通じてお互い気をつけてもらいたいこと、気付いて欲しいことなどを素直に表現し、お互いの気持ちの理解や家族の絆を深めることを目的としています。

平成27年度は各部門合わせて750点の応募がありました。



平成27年度 家庭の日ふれあい川柳 優秀作品

部門	賞状	子の句	返句	作者
小学5年生部門	最優秀賞	親の手は 友とはちがう	あたたかさ ぬくもりを ふれて伝える	宇佐市立深見小学校 中野 向瑛・恵子
	優秀賞	母さんの うるさい小言	耳にたこ 戒めを 聞かぬあなたは 馬の耳	大分市立坂ノ市小学校 坂井 秀吉・美穂
小学6年生部門	最優秀賞	かくしても ママは何でも 知っている	かくせない あなたの顔に 書いてある	竹田市立南部小学校 渡部 伊織・恵美
	優秀賞	夏休み 長く続けと 願うほく	夏休み 早く終われと 願う母	佐伯市立渡町台小学校 戸高 史登・理恵
中学1年生部門	最優秀賞	「ありがとう」 その一言が 聞きたくて	「ぼくがやる」 その一言が 嬉しくて	九重町立このえ緑陽中学校 河野 瞬・美保
	優秀賞	妹の 笑う笑顔は 宝物	妹を あやすあなたも 宝物	日出町立川崎小学校 広瀬 未羽・智子
優秀賞	優秀賞	新鮮な 祖父の野菜は 世界一	菜園に 孫の成長 願い込め	県立大分豊府中学校 宮下 夏凜・高橋 良忠
	優秀賞	わからない 親に聞くより グーグルで	親に聞け こっそり調べる グーグルで	九重町立このえ緑陽中学校 須藤 凜空・裕平

問い合わせ先：大分県生活環境部私学振興・青少年課内

「家庭の日ふれあい川柳」事務局 ☎事務局097-506-3076

県民会議加盟団体の活動

チャイルドラインおおいた

子どもたちは、「自分で解決していく力」「明日に向かう力」を秘めています。その力を発揮するには、子どもたちの気持ちを真剣に受けとめる身近なおとなたちの優しい眼差しが必要です。少しずつ自分の気持ちを確かめながら、それなりに前に進むためにも、子どもの「こころの居場所」が社会には欠かせません。子どもたちが夢と希望に胸をふくらませ、人として輝いていられる社会になることを願いつつ、今日も私たちは、子どもの電話を受けています。

電話で受けた子どもからのメッセージを社会にかえし、様々な立場のおとなと共に考え、子どもたちが生き生きと生活できる環境づくりを目指します。



**チャイルドラインは
子どもの声を受け止める電話です。**

チャイルドラインは18歳までの子ども専用の電話です。
1970年代に北欧ではじまり、現在は世界145か国で展開されています。
日本では1998年から活動が始まり、年間20万件の電話を受けています。



特定非営利活動法人 共に生きる

NPO法人共に生きるは、平成22年6月に設立いたしました。活動の一つである病気の子どもの持つ親御さん支援の紹介をさせていただきます。代表理事である私には、3人の子どもがメザンギウム増殖型腎炎・発達障がい・くも膜化血腫の後遺症からてんかんとそれぞれに病気・障害を抱えています。その体験を基に電話相談・ピアカウンセリングを展開しております。

22年当初は、病気の子どもの持つ親御さんが中心でしたが、不登校からひきこもりそして発達障害と相談が変化してきました。当団体では、平成26年度不登校・ひきこもりを、平成27年度は発達障害をテーマとした公開講座を一般の方に知ってほしいと開催しました。たくさんの参加者に励まされています。その都度実施したアンケート結果が活動につながっております。平成28年度は、青少年からの発達障がいを持つ子どもの家族が集える場を作りたいと思います。当団体では、一人ひとり自分らしく生きられる社会を目指しています。



公益社団法人日本ボーイスカウト大分県連盟

私たちのボーイスカウト運動は、今から109年前の1907年イギリスのブラウンシー島で行われた小さなキャンプからスタートしました。少年たちの旺盛な冒険心や好奇心をキャンプ生活や自然観察、グループでのゲームなどの中で発展させ、「遊び」を通して少年たちに自立心や協調性、リーダーシップを身につけさせようとして活動する世界に広がるスカウト運動です。

大分県連盟では、県下10団の約500名が世界162の国と地域の約3,600万人とともに活動しています。昨年8月には、155の国と地域から33,628人が山口県阿知須・きらら浜に集い、世界最大のスカウトの祭典「第23回世界スカウトジャンボリー」が開催されました。

大分県連盟から参加したスカウトも、海外スカウトを意識せず、あたりまえのように一日一日の活動を共有している時間を感じ取れた貴重な体験となったと思います。



第36回「大分県少年の船」運航事業

大分県の明日を担う青少年が、規律、友情、連帯の精神のもと、船内研修、現地研修及び団体生活を通じて、広い視野と社会性を養い、環境や平和の重要性を学ぶことを目的に、昭和55年から運航しており、今回で36回の運航となりました。

今年度の大分県少年の船は、台風12号の影響を受け、沖縄県訪問を断念しましたが、広島県での現地研修では、広島平和記念公園での慰霊祭や原爆ドームの見学、広島県立美術館等を訪問しました。その後、船は一路南下、種子島宇宙センター見学や種子島の自然にふれることができ、無事、4泊5日の航海を終えることができました。

日程 事前研修 7月 5日(日) 大分銀行ドーム
 本研修 7月25日(土)～29日(水) 広島県、鹿児島県(種子島)
 事後研修 9月22日(火) 大分銀行ドーム

参加者 小学生(団員) 483名
 中学生(副班長) 47名
 高校生(班長) 28名
 成人(スタッフ) 51名 計609名



活動内容 ○班や班を越えて親睦を深めるための「大分県少年の船交流会」や広島平和記念公園での慰霊祭、種子島宇宙センター見学などの現地研修、平和や自然環境に関する学習活動などを行いました。
 ○参加した団員の多くが「友だちがたくさんできた」「戦争の恐ろしさがあった」「決まりやルールを守ることの大切さが理解できた」など、出航前と比べ、一回りたくましく成長しました。

第37回 —今、中学生が訴えたいこと—

少年の主張

大分県大会



8月7日(金)、豊後高田市中央公民館で開催され、1,517名の応募者から選ばれた10名の中学生が、日常生活の中で感じていることや考えていることについて意見を発表しました。

今回も、家族や友達とのかかわりを通して気づいたことや、世の中の矛盾や社会の葛藤に気づき、自分たちが今後どうしていくか考えたこと、命の大切さや多くの人々の優しさに気づいたこと等、多種多様なテーマで発表が行われました。

大会発表者作品

(※学年は大会当時)

最優秀賞

◆「あたりまえにありがとう」
 伊地知三咲子 (玖珠町立玖珠中学校2年)

大分県教育長賞・優良賞

◆「ウミガメと共に生きる」
 佐藤 太昭 (別府市立浜脇中学校2年)

共感賞・優秀賞

◆「大好きだったから」
 田中 希和
 (九重町立ここのえ緑陽中学校2年)

優秀賞

◀「いただきます」 白石 愛 (竹田市立緑ヶ丘中学校3年)

優良賞

◀「挑戦～「日本人」から「世界人」へ」 光門 優花 (豊後高田市立河内中学校3年)

◀「元気の種」 久保ひびき (竹田市立直入中学校3年)

◀「ありがとうを伝えたい」 吉村 夏紀 (宇佐市立駅川中学校3年)

◀「今、目の前にあることを真剣に」 後藤 葵 (玖珠町立森中学校3年)

◀「目を反らさずに」 橋本 綾乃 (玖珠町立森中学校3年)

◀「語り継ぐことで」 嘉月 理子 (竹田市立久住中学校3年)

平成27年度

「大分県少年のつどい」を開催

平成28年2月20日(土)～21日(日)に、冬の自然に親しむ「大分県少年のつどい」を県立社会教育総合センター九重青少年の家で開催しました。

本事業は、大分県青少年育成県民会議の体験活動部会が企画・実施したものです。

当日は、県内各地から小学4年生～6年生141名が1泊2日の活動プログラムに参加しました。初日はあいにくの雨模様でしたが、その雨も深夜には雪に変わり、目覚めると一面白銀の世界に様変わり。短時間でしたが雪遊びもできました。

第1日目

○プラホビー作り(工作活動)

当初、予定していた自然散策もあいにくの雨で断念。大好きなキャラクターの絵や自分で考えた絵を描いたプラホビー作りにチャレンジしました。

○キャンドル活動

宮火長のお話や各班の出し物など、全員でキャンドルの明かりを囲みながら、厳かな夜を過ごしました。

主な活動プログラム

第2日目

○班別対抗レク

レク担当の趣向を凝らした様々なレクリエーションでプレイホールは子どもたちの元気いっぱいの声と笑顔につつまれました。

参加した
子どもたちの声

- ・キャンドル活動での班の出し物は少し恥ずかしかったけど、成功してよかったです。
- ・他の小学校の人とたくさん話をしたり、活動したりすることができてうれしかったです。
- ・みんなで雪遊びをして、とても楽しかったです。

作品介绍 第37回「少年の主張大分県大会」最優秀賞



「あたりまえにありがとう」

玖珠町立玖珠中学校 2年
伊地知 三咲子

「あー、今日もまたテストか。学校なんていっそ休みになっしまえばいいのに。」毎日何となく学校に通い、同じことの繰り返しの日々。そんな日々を当たり前と思ひ、つまらないとさえ感じていた、4年前。

けれど、今私は、勉強できることがうれしい。きつい部活の練習も、友だちとの何気ない会話も、家族と過ごす家での時間も、その全てが宝物のようにかけがえのない。そんなふうにならなくなったのは、あの日、あの時の母の味。

2011年3月11日、午後2時46分。東北地方を中心に大きな地震が起きました。東日本大震災です。私はその時の被災者です。当時私は、父の転勤で青森県に住んでいました。「地震だ!」先生の一言でみんなが一斉に机の下に隠れました。床中に道具がちらばり、バケツの水がこぼれて水浸しになりました。私は訳がわからないまま体育館に避難しました。歩いて帰るのが難しいと判断されたため、親が迎えに来るのを待つことになりました。やっと母の顔が見えたとき、本当にほっとしました。

家に帰って手を洗おうとしたら、水が出ません。電気をつけようとスイッチをいれても電気がつきません。母が夕ご飯を作ろうとガスをつけても、ガスは止まっていました。私は生まれて初めて、ろうそく一本の灯りの中でご飯を食べました。「私の誕生日ケーキのろうそくなら、にぎやかで心をわくわくさせるのに。」そう思うと、涙が出そうになりました。その上、ぼそぼそで味のない冷たいご飯は私の心の隅々に寂しさを広げていきました。噛んでも噛んでもご

飯の味にはなりません。夜は寒さをしのぐために厚着をし、何枚も布団を重ねて寝ました。

次の日から学校は休みになりました。朝から家族で、電気がなくても生活に使えるものを準備しました。「いつあの当たり前前の生活に戻れるんだろう。もし、この生活が長引いたら。」私は考えれば考えるほど怖くなりました。「早く温かいお風呂に入っておいしいご飯を食べたい。学校に行って友だちに会いたい。」私は心からそう願いました。

地震が起きてから2日後、待ち望んでいた電気、水道、ガスが元通りになりました。早速私はお風呂に入りました。3日ぶりのお風呂に首までつかって、じんじんするつま先をほぐしたり手足をゆっくり伸ばしたりしました。気持ちまでさっぱりした私がお風呂から上がると、母が台所で料理を作っていました。「トン、トン、トン。」久しぶりに母が野菜を切る音。母の料理をする後ろ姿が、こんなにうれしいものだなんて。いいにおいにつられて、私は待ちきれず、のぞきに行ったり周りをうろろしたりしていました。「ご飯できたよ。」母の声で家族全員が食卓に集まりました。そこにはほかほかと湯気をのぼせた、温かいおでんがありました。私は好きなちくわを真っ先にとって、早く食べたいのを我慢してふーふーと冷ましてから、ぱくりと一口ほおばりました。その温かいおでんの味は私の胃袋から体全体に、そして心にまでじんわりと染み渡りました。その余韻を楽しみながら、私はまた一口ほおばりました。その時の温かいおでんの味を私は決して忘れません。

私はこの日から、私が当たり前と思っていたことは当たり前ではないのだと思うようになりました。毎日学校に通って勉強し、友だちとおしゃべりし、帰る家があること。そして温かい母の料理が食べられること。それは決して当たり前でなく、とてつもなく幸せなことだったのです。

「おはよう。」今日も教室で友だちの声が響きます。そして私は思います。「当たり前の今日にありがとう。」と。

市町村民会議の取り組み

1 中津市 (中津市青少年健全育成市民会議)

中津市の市民会議は中津支部(11小学校区)、三光支部、本耶馬溪支部、耶馬溪支部、山国支部(4中学校区)の5つの支部で構成し、校区の青少年の健全育成を図っています。その活動の一つとして、市内22小学校で就学児健康診断及び入学説明会時に新入生の全ての親対象に「校区子育て講座」を開催しています。「子育て、自分(親)育て」と題し、児童の健全育成に熱意を持った方が講師となって、子育てやしつけなど家庭教育のあり方や子どもにとって安全安心な校区づくりの重要性を伝える場としています。親からは「入学までの心構えや子育てのヒントをいただきました。」などの感想が出されるなど、学校や保護者にとって有意義な講座になっています。



2 別府市 (別府市青少年育成市民会議)

別府市青少年育成市民会議は、市内17の旧小学校区ごとの青少年育成協議会を中心に、各自治会をはじめとする地域団体やPTAとも協力しながら、地域行事や軽スポーツ、清掃ボランティア等の活動を行っています。子どもを対象とする行事ですが、地域のお年寄りなども一緒に参加することで、世代を超えた交流の場となっています。

石垣校区では、夏休み最初の土曜日の早朝に「ふれあいラジオ体操とおにぎり集会」を行っています。中学生が見本となってラジオ体操をした後、体育館でおにぎりを食べてふれあいを深める行事で、今年で14回目になります。

別府市では、28年度から、全ての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されますので、今後も、学校と青少年育成協議会が連携しながら、「地域の子どもは地域みんなで育てる」ための取組を行っていきたいと考えています。



3 臼杵市 (臼杵市青少年健全育成連絡協議会)

臼杵市では、各小学校区に13の地区健全育成会を組織し、区長会長を地区健全育成会会長に、小学校教頭を事務局長とし、校区ごとに活動を行っています。年に一度各地区の取組について情報交換し、臼杵市全体の青少年健全育成の気運を高めています。

市全体の取り組みとして11月に当市で開催された「おおいた教育の日」推進大会の会場において、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動の呼びかけを行いました。また「問題行動の背景・ネット上のトラブル」と題して保護者向けの研修会を行い、グループごとに意見を出し合う中で、適切なインターネットの利用法や家庭におけるルール作りの大切さを学ぶことができました。

今後も次世代を担う青少年の健全育成のために日々校区ごとの特色ある活動を実施するとともに、市全体として各地区健全育成会の連携を深めていきます。



4 佐伯市 (佐伯市青少年育成市民会議)

佐伯市には20地区に青少年健全育成協議会があり、各地区でさまざまな活動を展開しています。本部(事務局)の活動では大分県南部振興局と協力して「大人が変われば子どもも変わる」県民運動におけるあいさつ運動を定期的にコスモタウン、トキハインダストリーの出入口で実施しています。

また、青少年の非行・被害防止全国強調月間に合わせ、2,820発の花火が夏の夜空を彩る「さいきみなと火まつり」(8月8日)開催時に防犯協会、警察署、少年補導員、教諭の皆さんと合同で会場周辺のパトロールを実施し、非行防止に取り組んでいます。



5 竹田市 (竹田市青少年育成市民会議)

竹田市青少年育成市民会議では、健全な青少年の育成をめざし、各地域の5協議会を中心に民間団体や関係機関の連携により組織し、近年の社会情勢を踏まえ、活動の充実を図っています。

1. 家庭の教育力の再生を支援する
2. 青少年健全育成のため非行や問題行動未然防止に取り組む
3. 地域の青少年育成協議会等の連携と充実を図る

の3つの柱を基本に5協議会が各中学校区のニーズにそってそれぞれ特色ある活動として、「地域あげてのあいさつ運動」「校区内防犯等パトロール」「P T A合同講演会」など小・中学校を核として地域総ぐるみの活動を展開しています。

また、竹田市青少年育成市民会議として、他団体と共催で剣道大会や柔道大会などを開催しています。



6 玖珠町 (玖珠町青少年健全育成協議会)

玖珠町では、各中学校区7地区に地区協議会を設置し、あいさつ・ふれあい運動、パトロール活動、清掃活動、ほか地区独自の取組を行っています。6月に実施した総会では、2地区から小中学生と地域住民総出のレクリエーション大会や魚釣り大会、バードウォッチングなどの自然体験等の活動報告が行われました。

7月の推進大会では、本年度新たに開校し「地域の学校」として地域に根ざし、愛され、共に成長する学校をめざす玖珠美山高校の各科の生徒の皆さんによる意見発表、研究発表及び玖珠警察署生活安全課による講演を聴き、育成協議会に組織される各関係団体の共通認識を深めることができました。



大分県青少年健全育成大会



11月18日、大分市のトキハ会館ローズの間を会場に、大分県及び大分県青少年育成県民会議の主催による大分県青少年健全育成大会を開催しました。大分県青少年育成県民会議会員等、関係者約200名が参加しました。第1部(式典)では、会長の広瀬勝貞知事のあいさつ、田中利明県議会議長の祝辞に続き、大分県青少年育成県民会議会長表彰が行われました。各方面で青少年の健全育成に長年ご尽力いただいた功績により6名の方々に表彰状が授与された後、受賞者を代表して(公

社)日本ボーイスカウト大分県連盟の佐藤公一さんが謝辞を述べられました。

続いて、「家庭の日ふれあい川柳」の入賞者のうち代表3組6名(小5・小6・中1の各部門の最優秀賞)を表彰しました。

さらに、本年度の「少年の主張大分県大会」において優秀作品を発表した2名の中学生が青少年の意見を発表。東日本大震災の経験から「あたりまえにありがとう」と題した、伊地知三咲子さん(玖珠町立玖珠中学校2年)の発表や、ウミガメを題材に自然保護の大切さを訴えた佐藤太昭さん(別府市立浜脇中学校2年)の発表には客席から大きな拍手が沸き起こりました。

第2部(講演)では、「子ども・若者が未来に希望を持てる社会を目指して～高校生に心に火を灯す」出張授業「カタリ場」の事例を通して～と題して、認定特定非営利活動法人カタリバのディレクターである今村亮氏による講演が行われました。講演の中で、大学生が高校に出向き、悩みや将来の夢を語り合う出張授業「カタリ場」の取り組みが紹介されました。また、地元の大分大学の学生が「カタリ場」に参加した体験談を発表する場面もありました。講演後には、「大学生等が少ない周辺地域での活動は?」「文京区青少年プラザb-labや慶應大学SFC研究所の活動内容は?」「これから行く学校と学年を教えてください。また、自由に見学してもよいか?」などの質問が相次ぎ、聴衆の関心の高さが感じられました。



表彰を受けた方々



講師の今村亮氏と大分大学生



青少年の主張 伊地知三咲子さん

大分県青少年育成県民会議会長表彰

■ 保護育成者の部

橋本	きくえ	(大分市)
佐藤	公一	(津久見市)
山内	万壽子	(別府市)
金丸	妙子	(中津市)
吉田	壽樹	(日出町)
板井	泉一	(臼杵市)

■ 家庭の日 ふれあい川柳 最優秀賞

小学5年生の部	中野 向瑛、恵子	(宇佐市立深見小学校)
小学6年生の部	渡部 伊織、恵美	(竹田市立南部小学校)
中学1年生の部	河野 瞬、美保	(九重町立このえ緑陽中学校)

※敬称略

「大分県青少年育成県民会議」への加入のお願い

大分県青少年育成県民会議とは

県内市町村民会議をはじめ企業、団体等の111団体で構成されています。

県内の青少年が地域や社会の一員として主体的に未来を切り拓いていく資質を身につけ、自立を達成できるよう、「非行・被害防止と有害環境対策の推進」、「体験活動の推進」、「普及啓発と県民運動の推進」、「インターネット・携帯電話の安全安心な利用の推進」の4つを重点目標に掲げ、家庭・地域・学校が一体となった青少年健全育成県民運動の一層の推進を図ることを目指しています。

加入のお願い

現在、社会の急速な変化の中で、青少年の非行や被害だけでなく、ニート、ひきこもり、インターネットによる有害情報の氾濫など、青少年をめぐる多くの問題が山積しています。

このような状況を少しでも改善し、将来の大分県を担う青少年が健やかに成長していけるよう、県民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組んでいかなければなりません。

そこで、この活動の輪をさらに広げるために、一緒に活動に参加していただいたり、趣旨に賛同していただいたりする企業や団体の皆様のご加入をお願いいたします。

◎加入のしかた

大分県青少年育成県民会議事務局へご連絡いただいた後、「加入申込書」を送付いたします。詳しくは「大分県青少年育成県民会議」ホームページをご覧ください。

◎会費

正会員 年間3,000円 賛助会員 年間5,000円
賛助会員は、県民会議の実施する大会等への参加、青少年の健全育成に係る研修会等の講師のあつせん、賛助実績に応じての顕彰などの特典があります。

◎事務局

大分県生活環境部私学振興・青少年課内

TEL：097-506-3076

FAX：097-506-1745

E-mail：oita.patrol@gmail.com

自死遺児救済援護事業のお知らせ

大分県青少年育成県民会議では、自死遺児(自殺により親権者を失った児童生徒)を対象に、入学・卒業祝、修学旅行費補助、文化事業・スポーツ見学費助成等の援護活動を行っています。対象は県内に居住し、県内の小・中学校、特別支援学校小・中学部に在籍する自死遺児です。大分県内に居住していても、県外の学校に通学している人は対象にはなりません。亡くなった親権者の性別等に関係なく、また、生計を担う者であったかどうかは問いません。ただし、親権者の再婚や養子縁組等により新たに両親を得た者は除きます。

問い合わせ先 大分県青少年育成県民会議事務局 097-506-3076

大分県からのお知らせ

大分県青少年健全育成基本計画 (大分県子ども・若者プラン2015)を策定しました!!

総合目標

豊かな心で よりよく生きる おおいたの青少年
～ 家庭・地域・学校がつながり 育つ・育てる・育ちあう～

この計画は、青少年を取り巻く社会情勢の変化に対応し、新たな視点に立って目標を定め、県民の理解と協力のもとに、青少年の健全育成に関する施策を総合的かつ効果的に推進することを目的としています。計画の期間は、平成28年度から平成37年度までの10年間です。

基本目標1

～次代を担う青少年の育成～

- 青少年の健全育成・自己形成支援
 - ・家庭の教育力向上
 - ・幼児教育の充実
 - ・魅力ある学校づくり
 - ・学力体力の向上
- 多様な活動・社会形成社会参加支援
 - ・多様な教育の推進
 - ・スポーツ・文化活動の推進
 - ・様々な体験活動の推進
 - ・社会形成・社会参加への支援
 - ・国際的視野をもった人材の育成
- 社会にはばたく力の養成・環境づくり
 - ・職場体験、キャリア教育等の推進
 - ・就労支援の充実と雇用機会の創出
 - ・魅力ある職場づくりの推進
 - ・次代を担う人材の確保・育成

基本目標2

～青少年の健やかな成長を 社会全体で支えるための 環境整備～

- 地域社会・関係機関の連携・協働
 - ・「協育」ネットワークづくり
 - ・開かれた学校づくり
- 子育て支援等の充実
 - ・子育て支援機関の整備・充実
 - ・保護を要する家庭への支援
 - ・子どもの貧困問題への対応
- 多様な担い手の育成
 - ・NPO等青少年活動に関わる団体の育成と連携・協働の推進
 - ・市町村との連携・協働の推進
 - ・指導者の育成
 - ・青少年関係施設等の充実

基本目標3

～個別の対応を必要とする 青少年への支援～

- 青少年の状況に応じた個別の支援
 - ・非行防止対策、立ち直り支援
 - ・不登校、中途退学対策
 - ・ひきこもり対策
 - ・ニート対策
 - ・障がいのある青少年への特別支援の充実
- 青少年の被害・加害防止と保護
 - ・いじめ対策
 - ・児童虐待対策
 - ・被害少年の立ち直り支援
 - ・児童生徒を犯罪から守る取組
 - ・自殺対策
 - ・自立更生支援
 - ・青少年の権利を守る体制の整備
- 青少年を取り巻く有害環境への対応
 - ・社会環境浄化活動の推進
 - ・安全・安心なインターネット等利用環境づくり

※詳しくは、大分県ホームページをご覧ください。

おおいた青年総合相談所

ニートやひきこもり等、社会的自立に悩みを抱える青少年及びその家族を支援するために、3相談・支援機関を1ヶ所に集約した「おおいた青少年総合相談所」をお気軽にご利用ください。

- ① 青少年自立支援センター 097-534-4650
 - ・不登校、ひきこもり、ニート等青少年の悩み相談全般
 - ・月曜日～土曜日 9:30～17:30
- ② おおいた地域若者サポートステーション 097-533-2622
 - ・様々な理由で仕事ができずに悩んでいる人の就労、職場定着等の支援
 - ・月曜日～金曜日 9:30～17:30
- ③ 児童アフターケアセンターおおいた 097-574-8899
 - ・児童養護施設等を退所した人の生活や就職等の相談や支援
 - ・月曜日～金曜日 9:30～17:30



所在地 大分市東春日町17-19 大分ソフィアプラザビル 4階

URL <http://www.sougousoudanjo.sakura.ne.jp/>